

令和7年度 学校評価(前期) 報告書

伊予市立双海中学校 令和7年7月

No. 1

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割~8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目 ○生徒、◎保護者、□教職員、△地域有識者	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)					R6.12月 肯定率
							4	3	2	1	肯定率	
1 教育課程・学習指導 ・問題解決的な学習の実践や学び合いによる言語活動の充実 ・特別支援教育の視点による一人ひとりの生徒への全校的な支援 ・学校の教育活動や地域の活動における生徒の感動体験を通じた郷土愛や社会参画意識の醸成	① 「分かる・できたを実感する授業」「考える授業」「伸びる授業」の実現のためのICTを活用した個別最適な学習の充実等による授業改善 ② 「問題解決的な学習の実践や学び合いによる言語活動の充実 ③ 「特別支援教育の視点による一人ひとりの生徒への全校的な支援 ④ 「学校の教育活動や地域の活動における生徒の感動体験を通じた郷土愛や社会参画意識の醸成	○授業では、発表、実験、制作等自分の考えをまとめたり、表現したりする活動や体験活動の時間がよくある。 ○双海中は、授業で自分の考えをまとめたり、表現したりする活動や様々な体験活動をよく実施している。 □本校は、「表現力」「読解力」の育成のため、各教科や総合的な学習等において、適切な言語活動や体験的活動を実施している。	A	【考察】 近年、表現力や思考力の向上を目指して、ICTを効果的に活用した授業改善に取り組んでいる成果により、生徒・保護者・教職員ともに高い肯定率を保つことができている。一人ひとりの生徒にとって習得した知識や技能を活用できる授業の創造が必要である。 【改善方策】 今後も、ICTを活用した個に応じた学習指導、及び、相手の意見や考え方を理解して、互いに考え方を深め合うことのできる学び合い学習の充実を図る。また、読解力や思考力、表現力等を着実に育成していくため、「問答ゲーム」や「eスタ学習帳」などの取組の質を向上させるとともに、各教科等でもその学びを効果的に活用する。充実に向け整備を進めている学校図書館も大いに利用しながら、読書活動等、活字を通して学ぶ場面にも引き続き力を入れる。	生徒アンケート	◎	65	28	7	0	93	98
				【考察】 生徒・保護者ともに高い肯定率である。生徒は、「話をしっかりと聞く」「きちんとノートをとる」等の基本的な学習習慣を意識しながら授業に臨んでいることが分かる。「聞くこと」「書くこと」の大切さに着眼をおいた学習指導や生活指導にも丁寧に取り組んでいく必要がある。 【改善方策】 生活習慣や学習習慣の確立のために、教職員が目指す方向をしっかりと共通理解し続けるとともに、生徒への丁寧な指導を積み重ねていく。知識や技能を学びさせること、及び、思考力・判断力・表現力等の育成における、「聞くこと」や「書くこと」の大切さに留意して学習場面を設定するとともに、魅力的な学習課題を設定し、生徒が「主体的」「対話的」にその解決に向かうことのできる問題解決的な学習の充実を進める。	保護者アンケート	◎	48	52	0	0	100	
				教職員アンケート	◎	67	33	0	0	100		
				【考察】 生徒の肯定率は、昨年度の12月の調査時からが向上している一方で、保護者の肯定率は若干下がっている。学習内容の理解に課題を感じている生徒も一定数いるため、個別最適な学習の充実が求められる。 【改善方策】 一人ひとりの生徒が意欲をもって学習に臨み、「分かる・できたを実感」できるように、ICTも効果的に活用しながら、個に応じた学習活動の充実に努めていく。「個別最適な学習」が具現化できるよう、日々の授業における見取りとともに、定期テストや小テストの分析を丁寧に行い授業改善につなげていく。数学科におけるティームティーチングの取組もさらに充実を図る。	生徒アンケート	◎	54	44	2	0	98	93
				保護者アンケート	◎	37	57	7	0	93		
				教職員アンケート	◎	22	67	11	0	89		
				【考察】 昨年度の12月の調査と比較して、生徒の肯定率は向上している一方で、家庭学習への取組が不十分であることを自覚し、課題としている生徒も多い。また、保護者の肯定率は12月から減少している。全評価項目の中で全体肯定率が唯一Bとなっている項目である。生徒が自律的に学ぶことができるよう、指導の徹底が必要である。 【改善方策】 生徒が自律的に学びを進められるよう、家庭学習の課題の出し方等を工夫していく。また、自律的・計画的に学びを進めていくことの意義や自主学習の進め方について、各教科で丁寧に指導していく。家庭学習の習慣がしっかりと身に付くよう、積極的に家庭にも協力を求めていきたい。	生徒アンケート	○	36	41	21	3	77	83
				保護者アンケート	○	21	52	24	3	72		
				教職員アンケート	◎	22	78	0	0	100		
				【考察】 生徒一人ひとりの学習の様子に目が届きやすい利点を生かして、授業中に生徒の課題を教師が把握でき、高い肯定率となっている。一方で、教師にもっと質問するよう生徒に望む保護者の存在もあり、生徒の質問力・行動力の向上も求められる。 【改善方策】 教師は、授業における発問や説明、指示において、「分かりやすさ」に留意した言葉遣いや話の構成を行う。また、生徒が教師に質問・相談することへのハードルがさらに低くなるよう意図した生徒との人間関係作りや授業の雰囲気づくりをさらに進めていく。授業等において生徒が質問できる場の保証にも努める。	生徒アンケート	◎	52	45	2	0	98	99
				保護者アンケート	◎	27	73	0	0	100		
				教職員アンケート	◎	56	44	0	0	100		
				【考察】 地域行事が減少している地域もあり、参加しにくい生徒もいるが、多くの生徒が公民館が主催している各種の活動やほたる祭り、トライアスロン等のイベントに、様々な形で参加し、生き生きと活動することができている。地域の教育資源の活用については、保護者やコミスケメンバー等にも惜しみなく協力していただいているため、積極的に学びに生かすことができている。 【改善方策】 地域行事が、生徒にとっては学校とは違う個性を發揮する場となっており、存在感を得ることにつながっている。今後もPTAやコミスケメンバー、公民館との連携をさらに強化し、地域の力も大いに借りながら、地域資源の教材化に努め、「自分が好き 学校が好き 双海が好き」の気持ちが生徒に高まっていくような教育活動を工夫する。	生徒アンケート	◎	60	30	8	3	90	96
				保護者アンケート	◎	40	57	3	0	97		
				教職員アンケート	◎	70	30	0	0	100		
				地域有識者アンケート	◎	76	20	4	0	96		

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」回答者数:生徒44名、保護者30名、地域有識者28名、教職員10名

※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均